

大阪

あんなとこ
こんなとこ

『松屋町』

三月は桃の節句、ひなまつり。お正月を過ぎると、毎年、新聞のチラシ広告やテレビのスポンサーサイトには雛人形がお目見えします。人形・玩具といえば、大阪ミナミの「まっちゃんち」。今回は松屋町について調べてみました。

瓦づくりから始まった松屋町

松屋町という町名は江戸初期からのもので、この辺りに松屋という邸宅があったことに因むと言われています。松屋町が人形の町と言われるようになったのは、瓦の製造に端を発します。現在の松屋町筋一帯は、土質が良く、豊臣秀吉が大坂城を築城した頃より、城の屋根瓦の原料を産出していました。そのことから御用の瓦職人がこの辺りに住みつき、代々、瓦を製造するようになったそうです。江戸時代になってからも、大坂夏の陣で焼失した大坂の街の復興や大坂城の改築、修復のため屋根瓦の生産は盛んに行われました。その頃の瓦職人は、屋根瓦だけでなく、大きな鬼瓦や鯨なども造っていました。その様子は、江戸中期に発刊された『撰津名所図会』で伺い知る事ができます。人形づくりは、瓦職人が仕事の合間に焼いた素焼きの人形が評判を呼び、人形を専門に商いする店まで表れました。その後、熊野詣の途中、参拝者がお土産に菓子やおもちゃを買い求めるようになり、人形店が集まり始めました。昭和初期の御堂筋拡張工事に伴い、御堂筋沿いで商いしていた人形店も松屋町に移転し、人形や玩具の問屋が軒を連ねる人形の町へと発展しました。

個人の「まっちゃんち」のイメージは、春はひな人形、五月人形。夏は花火に秋はお祭り、冬はクリスマスと、四季折々の彩り一色に染まる街。日常を凌駕した華やかさにくわくドキドキ、幼い頃は松屋町を訪れる度に、終始興奮していたのを覚えています。今回、久しぶりに訪れた松屋町は少し様変わりしていました。飲食店やマンションが増え、静かで落ち着いた町となりました。

三月十四日には、戦国時代さながら、甲冑姿の武将がホラ貝の音と共に町を練り歩く行列「松屋町春の陣」歩く五月人形」が開催されること。今年で四回目となるこのイベントを見に、また「まっちゃんち」を訪ねてみようと思いました。



人形の町・松屋町らしい
外観のビル

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞